

大学院特別講義（日本大学経済学部）

## 現代会計のハイブリッド構造とその矛盾

石川純治（駒澤大学教授）

2018年11月23日

講義概要：

現代会計の特徴、とりわけ伝統的会計にはけっして見られない特徴は何か。そう問われれば、躊躇なく「包括利益（C I）」なканずく「その他の包括利益」（O C I）と答えた。なぜなら、包括利益であるが純利益（N I）でないという、その矛盾を帯びた性格に現代会計の特徴が現れているからである。O C Iが何処からくるか、この点を探ることが、それはその矛盾を明らかにすることでもあるが、現代会計の性格を理解する重要な鍵となる。

その性格とは、端的に言えば、現代会計に見られる異種なるもの——フロー思考の伝統型とストック思考の現代型——の併存と交錯（ハイブリッド構造）である。

0) 基礎研究の意義：参考①の序文

わかりやすい例は医学：基礎と臨床、両者の融合  
会計学では—

I) 現代会計のハイブリッド構造とその矛盾：第4章

II) O C I現象と現代会計：第5章

III) O C Iは何処から来るか—その出所と性格：参考②のトピック8

参考：

①拙著『基礎学問としての会計学』第4章「現代会計のハイブリッド構造とその矛盾」、第5章「O C I現象と現代会計」第3、4節（97-104ページ）

②拙著『揺れる現代会計』8「O C Iは何処から来るか—その出所と性格」

③拙稿「資産除去債務と減価償却」『週刊経営財務』2016年8月8日号。

### 第4章 現代会計のハイブリッド構造とその矛盾—変容の基礎にあるもの—

1 P/L目的とB/S目的の新たな関係

(1) 両者の乖離とO C I

(2) O C I = 「連結環」—伝統型とは逆連携

2 純損益と包括利益

(1) 単なるタイミングの相違か

(2) 起点は資産・負債の測定基礎—収益・費用に測定基礎はないのか

(3) 損益法はどこに—その位置と日本版概念フレームワーク

3 ハイブリッドの基礎にあるもの—「全体」を見せる

(1) 会計思考の変化と制度変化—現代会計の「歪み」への視点

(2) 「全体」を見せる—O C I / リサイクリング問題への視点

補論 4.1 資産除去債務と減価償却—ハイブリッド性と矛盾性の観点から

- (1) 認識の順序—貸方負債の先行性、付随費用説の問題点
- (2) ハイブリッド減価償却—異種なる減価償却の合算

補論 4.2 割引現在価値計算の現代的な位置—現代型（時価評価）と伝統型（会計配分）

補遺 後入先出法はなぜ廃止か—ストック重視思考の一環として

- (1) 後入先出法が消える—資産価値を映さず
- (2) 在庫の評価益か—「配分」と「評価」の双対性
- (3) 2つの「実態」—実態利益の「計算」(P/L)か、財務実態の「開示」(B/S)か
- (4) 低価法への一本化—在庫の「含み損」放置の回避

第5章 OCI現象と現代会計—古典的2大学説の現代性—

1 古典と現代の接点

2 古典的2大学説の座標軸—その現代性

- (1) 現代会計への座標軸—学会設立の原点と3つの基軸
- (2) 概念フレームワークの理論性と制度性—x軸とy軸の現代的な位置

3 OCI現象と現代会計—現代会計の特徴的現象

- (1) 利益計算と情報開示の矛盾・乖離
- (2) 事業活動の性質と企業資本の運動—x軸上の古典と現代

4 変容の基礎にあるもの—現代会計のハイブリッド性とその基礎

- (1) 「会社とは何か」と会計—「会社=ヒト」の会計と「会社=モノ」の会計
- (2) 会計枠組みと会計思考のハイブリッド—会計基準の幹と根

5 いま生きる古典

- (1) 「社会科学としての会計学」の有り様—「共通の基盤」と現代
- (2) いま生きる古典

補論 5.1 現代会計の特徴と総体的把握の方法—複式簿記の現代的な位置

- (1) 総体的把握のアプローチ—2つのタイプ
- (2) 擬制資本の会計—計算と開示の全体

補遺 所有／主体の二重性と会計計算—2つの会計の基礎

- (1) 2つの所有と主体—持分と支配の観点
- (2) 投資の主体と投資の回収
- (3) 持分／支配の観点と実現概念
- (4) 所有／主体の二重性と会計—2つの会計の基礎とあり方

トピック 8 OCIは何処から来るか—その出所と性格

かつての問題意識と今日 時価開示とOCI—その他有価証券 矛盾の原形—B/S「開示」とP/L「計算」 債務実態の開示とOCI—改定退職給付会計 OCI／リサイクリングと未確定／確定の含意—推移的性格 〈補遺〉会計基準の3つの場（範疇）—取引内容の変容と拡大、会計の進歩か